

# グリーントピックス

No.44

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

## 広葉樹林化とエゾシカ食害

針葉樹人工林を強度に間伐して針広混交林や広葉樹林に誘導したり、広葉樹を植栽するなど、広葉樹林を育てようという取り組みが広がっています。しかし、近年のエゾシカの増加により、天然更新した稚樹や植栽した広葉樹が食害を受けているところも少なくありません(図-1)。植栽後に食害防止対策を講じるのは困難です。エゾシカ被害の情報や周辺の森林の観察(写真-1,2)をもとに、食害を受ける可能性について、植栽前に慎重な検討が必要です。(保護グループ)

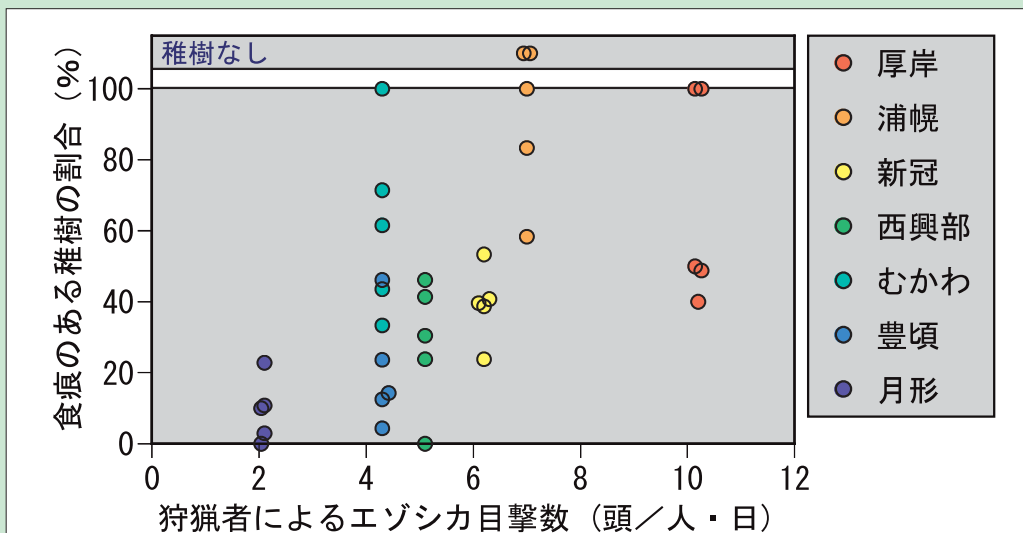


図-1 トドマツ人工林内の広葉樹稚樹(高さ30~200cm)にエゾシカ食痕のある割合

厚岸や浦幌の調査地はエゾシカの生息密度が高く、ほとんどの広葉樹稚樹が食害を受けています。これらの調査地では、食害によって稚樹の本数も少なくなっており、稚樹が消失した調査地もあります。

### こんな状態がみられるところでは、広葉樹の更新は困難です



写真-1 林内のササの変化

厚岸町の道有林では、エゾシカの食害を受けてスズタケが衰退しています。

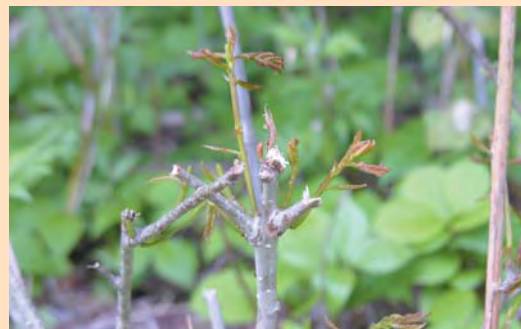


写真-2 食害を受けたミズナラの稚樹

食害が激しい地域では、稚樹に繰り返し食害を受けた食痕がみられます。